

# 最近のヒクラゲ（刺胞動物門：立方クラゲ綱） の出現と若干の生物学的観察

○上野俊士郎・河村真理子・佐々木克明・久保田 信・山口麻美  
(水産大学校) (なぎさ水族館)(京大瀬戸臨海)(広大院生物圏科学)

キーワード： ヒクラゲ，立方クラゲ，分布，形態，生態

## 1. はじめに

ヒクラゲ *Tamoya haplonema* Muller は瀬戸内海に秋冬に普通にみられ(Kishinouye 1910)，時に集群を形成するといわれている(Yamazi 1958)。また，本種は強い刺胞毒により瀬戸内海の漁業者に「火くらげ」として恐れられている大型の立方クラゲである(Uchida 1970)。しかし，Uchida(1970)以降，出現報告はみあたらない。

演者らは，昨年広島湾と和歌山県白浜町の一湾で計10数個体のヒクラゲを観察し，採集する機会に恵まれた。今回は，今まで報告がない本種の出現時の状況とともに形態学的観察を行ない，生態と分布について考察したので，報告する。

## 2. 出現時の状況

### 和歌山県白浜町袋湾

2000年6月27日昼間に湾奥の漁港内の表面近くで傘高90mmの遊泳中の1個体をバケツにより採集。

天候：曇

### 山口県東和町情島港

12月6日6:40情島港表面近くで傘高150mmの遊泳中の1個体をバケツにより採集。天候：晴(風)，水温：18。

また，12月20日12:30頃同所で1個体(傘高200mm)を同様に採集。天候：曇，水温：16.9。

近年，情島港周辺域では冬期にヒクラゲはしばしば出現すると言われている。

### 広島県音戸町音戸漁港

12月15日20:00頃，外灯下の海水面に8個体がそれぞれ単独遊泳していた。そのうちの3個体(傘高136mm，150mm，173mm)を採集した。天候：晴，水温：15.5，塩分濃度：33.3。

翌日午前同漁港では発見できなかった。12月には頻りに出現し，体長5cm前後の小型魚を捕食している個体も珍しくないとの釣人の話。

### 広島県下蒲刈町見戸代海岸と丸谷漁港

見戸代では，2001年1月1日8:00頃護岸堤沿いに1個体(傘高約150mm)を，丸谷漁港では天神鼻の防波堤の内外に計6個体(傘高：1個体が約100mm，他は約150mm)を観察した。天候：曇(日差しあり，風)。

## 3. 形態学的観察結果

本報告のいずれの採集試料も傘高90mm以上と立方クラゲとしては大きく，ヒクラゲの特徴である幅

広い擬縁膜と枝分かかれた擬縁膜の細管を有していた。

### 和歌山県白浜町袋湾の試料

本試料は傘高が90mmと中型で，隔膜は未発達，胃腔も小さくなく，胃系が間軸部の4ヶ所に存在した。生殖巣は間軸の両側に最大で約5mm幅広がるが細く，未成熟の卵細胞(径10 $\mu$ m前後)が不規則に2,3層に重なって見られた。

### 山口県東和町情島港の試料

12月6日に採集した1個体はよく発達した精巣をもち，実験室飼育中に多量の放精を行った。触手上的刺胞(大部分がmicrobasic euryteles)から発射した管の長さは約1.4mmにも達した。

### 広島県音戸町音戸漁港の試料

傘高136mmの雌個体の卵巣は70-90 $\mu$ mの大型の卵細胞からなり，不規則な2,3重の構造をしていた。

## 4. まとめ

12月に情島と音戸で採集した4個体と1個体はいずれも成熟した生殖巣をもっていた。このことは本種が冬期に生殖活動を行なうことを示唆している。今まで，大型個体の冬期出現については報告されているが(Uchida 1970)，生殖期についての記述はない。本種の寒冷期の生殖活動は，主な分布域が熱帯亜熱帯であることから(たとえば，Uchida 1947)，考え難いので，今後の研究により十分に確認されるべきである。

Uchida(1970)は8,9月天草でヒクラゲの幼体を採集している。本研究の6月の白浜で得られた傘高90mmの未成熟な中型個体は，今までで最も早い時期に得られたものである。以上のことから，前述の成熟個体と考え合わせると，ヒクラゲは春頃にポリプより遊離し，夏期と秋期に成長し，冬期に生殖活動をすることが示唆される。

本種がUchida(1970)以来出現報告がなく，今回特に冬期に大型個体として多く出現したことについて説明が困難である。また秋期に広島湾の底引き網への多量混入の情報もあり，夏期および秋期に近海底生活者の可能性も考えられる。